

各教科等のシラバス



宇都宮市立陽北中学校

令和3年4月12日

保護者様

宇都宮市立陽北中学校長 樽井 久

評価・評定について

本年度より、文部科学省が示す学習指導要領が全面改訂され、実施させることになりました。それに伴い、教科の「評価・評定」の算出方法も変わります。

昨年度までは5観点(国語)・4観点(国語以外の教科)で観点別評価を算出し、そこから出現率によって5段階の評定を算出しました。

今年度より、すべての教科が3観点になり、出現率の基準が変わります。

下記に示す算出方法は、文科省・県教委・市教委の示す規準をもとに、本校としての規準を設定したものです。

今年度の改訂は、学習の評価・評定にとっては大きな変更となりますので、下記をよくお読みいただきたいと思います。

1. 観点別学習状況の評価と評定

(1) 各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況の評価(目標準拠評価)とする。したがって、相対評価とは異なる。

(2) 観点別学習状況の評価は次の3段階とする。

		本校の達成度規準
十分に満足できると判断される状況	A	80%以上
おおむね満足できると判断される状況	B	80%未満～30%以上
努力を要すると判断される状況	C	30%未満

(3) 評定(観点別評価の累積)は次の5段階とする。

十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの	5
十分満足できると判断されるもの	4
おおむね満足できると判断されるもの	3
努力を要すると判断されるもの	2
一層の努力を要すると判断させるもの	1

2. 評価から評定への総括

(1) 評価(ABC)から評定(1～5)への総括は、全教科共通とする。

(2) 出現率の規準

評定	達成度	ポイント
5	AAA	9
4	AAB	8
3	ABB、AAC	7
	ABC、BBB	6
	BBC、ACC	5
2	BCC	4
1	CCC	3

A : 3
B : 2
C : 1
とする。

3. その他

各教科のシラバス(「学習内容」・「評価の観点・方法」等)については、後日、各教科をまとめて提示しますので、お読みになってください。

尚、生徒には各教科の授業の中で説明をしながら配付します。

令和3年4月12日

生徒の皆さんへ

宇都宮市立陽北中学校長 樽井 久

評価・評定について

本年度より、文部科学省が示す学習指導要領（学習内容・学習方法等）が全面改訂され、実施させることになりました。それに伴い、教科の「評価・評定」の出し方も変わります。

昨年度までは5観点（国語）・4観点（国語以外の教科）で観点別に評価を出し、そこから出現率（ABC）によって5段階の評定を出しました。

今年度より、すべての教科が3観点になり、出現率の基準が変わります。

下記に示す成績の出し方は、文科省・県教委・市教委の示す規準をもとに、本校としての規準を設定したものです。

今年度の改訂は、学習の評価・評定にとっては大きな変更となりますので、よく読んでください。

1. 観点別学習状況の評価と評定

(1) 各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況の評価（目標準拠評価）とする。したがって、他人と比べた評価とは異なる。

(2) 観点別学習状況の評価は次の3段階とする。

		本校の達成度規準
十分に満足できると判断される状況	A	80%以上
おおむね満足できると判断される状況	B	80%未満～30%以上
努力を要すると判断される状況	C	30%未満

(3) 評定（観点別評価の累積）は次の5段階とする。

十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの	5
十分満足できると判断されるもの	4
おおむね満足できると判断されるもの	3
努力を要すると判断されるもの	2
一層の努力を要すると判断させるもの	1

2. 評価から評定への総括

(1) 評価（ABC）から評定（1～5）への総括は、全教科共通とする。

(2) 出現率の規準

評定	達成度	ポイント
5	AAA	9
4	AAB	8
3	ABB、AAC	7
	ABC、BBB	6
	BBC、ACC	5
2	BCC	4
1	CCC	3

A : 3
B : 2
C : 1
とする。

3. その他

各教科のシラバス（「学習内容」・「評価の観点・方法」等）については、授業のなかで説明をしながら配付します。

国語科

1. 学ぶ目的・目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指します。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようになります。
・言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方、わが国の言語文化に関する「知識及び技能」に関して学びます。こうした「知識及び技能」を社会生活で主体的に活用できるように習得していきます。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養います。
・互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めます。また、言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を養います。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、わが国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養います。
・言葉が持つ価値とは、言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすることや、言葉を通じて人や社会について理解を深めることです。また、言語感覚とは、言語で理解したり表現したりする際の正誤・適否・美醜についての感覚のことです。この言語感覚を豊かにすることで、ものの見方や考え方を形成することに役立ちます。

2. 従来の学習指導要領と新学習指導要領

これまで、国語科の内容は、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で構成していました。今回の学習指導要領の改訂により、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に構成しなおされています。

3. 3年間で学ぶ内容

1年生	週4時間 (140時間)	国語	書写
2年生	週4時間 (140時間)	国語	書写
3年生	週3時間 (105時間)	国語	書写

【国語の内容】

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2) 情報の扱い方に関する事項
- (3) 我が国の言語文化に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕

A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと

4. 学習の心得

- (1) 授業に主体的に取り組もう。

何よりも「学ぼう」とする意欲が大切です。授業中は集中して取り組みましょう。授業のめあて（目標）を理解し、見通しを立て、学習のゴールへ向けて学習活動に取り組むことが大切です。そして、自分の学習の状況を振り返り、学習を調整する力を身に付けましょう。

- ・先生の話をしっかり聞く。（わからないところや疑問に思ったところは質問しよう）
- ・丁寧に、見やすくノートを取る。（板書を写すだけでなく、重要だと思ったことはメモしよう）
- ・与えられた課題等は期日内に必ず提出する。（ワーク類は計画的に進めよう）

- (2) 家庭学習をしっかりやろう・・・別紙参照

5. 評価の観点・方法

国語科では、日々の学習への取り組みや定期テスト、単元テスト、ノート、レポート、作品や提出物への取り組みなどをもとに総合的に判断します。具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の基準を定め、それを基に評価をします。

観 点 別 の 内 容	評 価 方 法
<p>【知識・技能】 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の特徴や使い方に関する事項 (例) 漢字、語句、文法、敬語、表現技法など ・情報の扱い方に関する事項 (例) 情報と情報との関係、情報の整理 ・わが国の言語文化に関する事項 (例) 古典、書写、読書 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・単元テスト、小テスト (事実的な知識を問う問題と知識の概念的な理解を問う問題)
<p>【思考・判断・表現】 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養っている。</p> <p>A「話すこと・聞くこと」 (例) 話題の設定、構成の検討、表現、話合いの進め方の検討など</p> <p>B「書くこと」 (例) 題材の設定、情報の収集、構成の検討、記述、推敲など</p> <p>C「読むこと」(説明的な文章、文学的な文章) (例) 構造と内容の把握、解釈、考えの形成など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・単元テスト ・ノートやワークシート、レポートの内容 ・発表やグループでの話し合い ・作品の制作や表現
<p>【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、わが国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養っている。</p> <p>(1) 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしているか。</p> <p>(2) (1) の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み、発言 ・ノートやワークシート、レポート等の記述 ・自己評価や相互評価の状況 ・ふり返りの内容

6. 授業に必要なもの

- ・教科書 ・ノート ・国語ワーク ・漢字ワーク
- ・国語ファイル (ワークシートやプリント類は全てファイルに閉じこみましょう。)
- ・習字道具 (半紙も含む) →いつでも持ってこられるようにしておきましょう。

社会科

1. 学ぶ目的

私たちの住んでいる社会では、毎日様々なできごとが起こっています。それらについて少しでも理解を深めることは大切なことです。そこから、より良い社会にするために必要なものの見方や考え方を学びます。

社会科の学習にもっとも大切なことは、過去や現在のすべての出来事や人々の生き方に関して、「どうしてだろう」「なぜだろう」という疑問を持つことです。

そこから、社会科のおもしろさが始まり、深い学びとともにより良い社会を実現するための基礎を養うことができるのです。

2. 3年間で学ぶ内容

1年生 週3時間 (105時間)

2年生 週3時間 (105時間)

3年生 週4時間 (140時間)

歴史	地理
歴史	地理
歴史	公民

※1・2年生は、地理的分野と歴史的分野を単元で区切って交互に進めていきます。

3年生は、まず歴史的分野を学習し、その後公民的分野を学習します。

(1) 地理的分野 (115時間)

世界や日本の様々な地域の自然の特色や、そこに住み、生活する人々の社会の様子について学習します。

(2) 歴史的分野 (135時間)

日本の歴史を、世界の歴史の流れとともに学習します。小学校と異なる点は、人物だけではなく、出来事や具体的なものと関連させていきます。時代の移り変わりや文化・社会の様子を学びます。

(3) 公民的分野 (100時間)

地理・歴史で学んだことをもとに、現在の社会のしくみを学習します。民主主義や経済のしくみと私たちの生活との関わり、国際社会のあり方などを学びます。

3. 学習の心得

(1) 授業に主体的に取り組もう

学力向上のポイントの一つは、授業を「自分のものにする」ことです。

そのための具体的な方法です。

- 易
- ① 忘れ物をしない。(1時間の授業がムダになってしまいます)
 - ② 授業前に教科書をよく読む。(教科書は最高の参考書です)
 - ③ 先生や級友の話を集中して聞く。
 - ④ 黒板の内容は、工夫してノートに書く。(ノートの活用も重要です)
 - 重要な内容等を、色を使って強調する。
 - 先生の話や、自分の考えを吹き出し等使ってメモをする。
 - 「めあて」に基づいた「ふり返し」を自分の言葉で表現する。
 - ⑤ 授業でわからなかったことは、後で教科書や資料集を使って調べる。
 - ⑥ 積極的に自分の考えを発表する。
- 難
- ⑦ 授業の内容に関する事で、興味や関心をもったものについて、自分で詳しく調べる。

(2) 家庭学習をしっかりとやろう・・・別紙参照

4. 評価の観点・方法

社会科では、日常の学習への取り組みや定期テスト、単元テスト、ノート、提出物などをもとに総合的に判断します。具体的には以下の3つの観点それぞれについて評価の基準を定め、それを基に評価をします。

観 点 別 の 内 容	評価方法
【知識・技能】 社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、様々な場面で活用できる知識を獲得している。収集した情報を読み取り、まとめる技能を身に付けている。	定期テスト、単元テスト ノート・レポートの内容 ふり返りの内容
【思考・判断・表現】 社会的事象から課題を見出し、事象相互の関連を多面的・多角的に考察しながら、その特色や意義を判断し、表現することができる。	定期テスト、単元テスト ノート・レポートの内容 ふり返りの内容
【主体的に学習に取り組む態度】 社会的事象に対する関心をもち、見通しをもちながら意欲的に追究し、より良い社会の現実を目指して主体的に課題を解決しようとする事ができる。	授業への取り組み ノート・レポートの内容 ふり返りの内容

数 学 科

1. 学ぶ目的

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを旨とする。

- ① 基礎的な概念や法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈し表現・処理したりする技能を身に付ける。
- ② 数学を活用して事象を論理的に考察する力、性質を見だし統合・発展的に考察する力、数学的表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- ③ 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、思考の過程を振り返り評価・改善しようとする態度を養う。

2. 3年間で学ぶ内容

1年生	週4時間	(140時間)
2年生	週3時間	(105時間)
3年生	週4時間	(140時間)

数と式	関数	図形	データの活用
数と式	関数	図形	データの活用
数と式	関数	図形	データの活用

3. 学習の心得

- (1) 1時間ごとの授業を大切に。授業に主体的に取り組もう。
(気になることは率先してメモをとり、質問しよう調べよう。)
- (2) 家庭学習にしっかり取り組み、復習に力を入れよう。・・・別紙参照
- (3) ワークブックに繰り返し取り組み、学習内容を定着させよう。
(特に、間違えた問題をチェックし、できるようになるまで何回も解き直そう。)

4. 評価の観点・方法

数学科では、日常の学習への取り組みや定期テスト、単元テスト、ノート、学習課題などをもとに総合的に判断します。具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価規準を定め、それを基に評価をします。

観 点 別 の 内 容	評価方法
【知識・技能】 ・基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈し表現・処理したりする技能を身に付けている。	定期テスト、単元テスト ノート・ワークシート 学習課題及びふり返りの内容
【思考・判断・表現】 ・数の性質と計算や数量関係、関数関係、図形の性質及び調査の方法や結果について適切に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	定期テスト、単元テスト ノート・ワークシート、 学習課題及びふり返りの内容
【主体的に学習に取り組む態度】 ・数学を生活や学習に生かそうとしたり、思考の過程を振り返り評価・改善しようとしたり、多様な考えを認めよりよく問題を解決しようとしている。	授業への取り組み ノート・ワークシート、 学習課題及びふり返りの内容

理 科

1. 学ぶ目標

自然の事物・現象に進んでかかわり、その中に問題を見いだし意欲的に探究する活動を通して、多様性や規則性を発見したり課題を解決したりする方法を学びます。

また、自然の事物・現象についての観察・実験を行い、その技能を習得し、結果を分析して解釈し表現する能力を身に付け、科学的な見方や考え方を養います。

そして、調べる活動を通して生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けて、自然を総合的に見るができるようにします。

2. 3年間で学ぶ内容

- 1年生 週3時間 (105時間) いろいろな生物とその共通点、活着ている地球
身のまわりの物質、光・音・力による現象
- 2年生 週4時間 (140時間) 生物の体のつくりとはたらき、地球の大気と天気の変化
化学変化と原子・分子、電流とその利用
- 3年生 週4時間 (140時間) 生命の連続性、宇宙を観る
化学変化とイオン、運動とエネルギー、自然と人間

3. 学習の心得

(1) 授業に主体的に取り組もう

「学ぼう」とする自分の意欲が第1です。そのために、授業中は集中して取り組みましょう。家庭学習等で復習することも必要ですが、授業の中でしっかり学ぶことが一番効果的です。具体的には、次のようなことに心がけてください。

- ・先生の話をしっかり聞く
- ・丁寧に、見やすくノートを取る
- ・与えられた課題等は忘れずに提出する
- ・家庭学習やワーク等を活用して復習する

(2) 家庭学習をしっかりやろう・・・別紙参照

4. 評価の観点・方法

理科では、日常の学習への取り組みや定期テスト、単元テスト、ノート、課題などをもとに総合的に判断します。具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の基準を定め、それを基に評価をします。

観 点 別 の 内 容	評価方法
【知識・技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	定期テスト、単元テスト ノート・課題の内容 ふり返りの内容
【思考・判断・表現】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	定期テスト、単元テスト ノート・課題の内容 ふり返りの内容
【主体的に学習に取り組む態度】 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	授業への取り組み ノート・課題の内容 ふり返りの内容

英 語 科

1. 学ぶ目的・目標

外国語による見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指します。

- (1) 外国語の音声や表現方法等を理解し、実際にコミュニケーションがとれる力をつける。
- (2) 場面に応じて、外国語による簡単な情報を理解し、表現したり伝えあったりできる。
- (3) 相手の文化を理解しつつ、主体的にコミュニケーションをとろうとする態度を養う。

2. 3年間で学ぶ内容

1年生 週4時間 (140時間)	聞くこと	話すこと (やりとり)	話すこと (発表)	読むこと	書くこと
2年生 週4時間 (140時間)	聞くこと	話すこと (やりとり)	話すこと (発表)	読むこと	書くこと
3年生 週4時間 (140時間)	聞くこと	話すこと (やりとり)	話すこと (発表)	読むこと	書くこと

3. 学習の心得

- (1) 授業に主体的に取り組もう。

英語は「言語」なので、相手とコミュニケーションをとれるようになることが学習の大きな目標になります。その目標を達成するためには、自分の気持ちや考えを英語で表現するために必要な語や文法は何だろうか、自分で考えながら学習することが重要です。

- (2) 様々な感覚を活かしながら、繰り返し学習に取り組もう。

聞く・話す・読む・書くという4つの技能を伸ばすためには、それぞれ耳・口・目・手の感覚を活かすことが大切です。具体的には、たくさんの英語音声を目で聞き、聞いた音声を真似して声に出し、声に出した音と目で見た情報を組み合わせたり結び付けたりし、繰り返し手で書く練習をすることが英語技能の上達に繋がります。

言語は上記のように、赤ちゃんが日本語を覚えるのと同じ過程、つまり「聞く・話す・読む・書く」の順で学習すると効果的です。失敗するほど身につきますので、試行錯誤しながら学習しましょう。

- (3) 家庭学習をしっかりとやろう。・・・別紙参照

- (4) ワークブックに繰り返し取り組み、学習内容を定着させよう。

間違えた問題をチェックし、できるようになるまで何回も解き直そう。

4. 評価の観点・方法

英語科では、日々の学習への取り組みや定期テスト、単元テスト、ノート、提出物などをもとに総合的に判断します。具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の基準を定め、それを基に評価をします。

観 点 別 の 内 容	評 価 方 法
<p>【知識・技能】 英語の言語としての働きを理解し、実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付けている。 ・音声や語彙、表現、文法、言語の使い方に関する事項 (例)発音、スペリング、符号、語、連語及び慣用表現、文法など ・聞くこと、読むこと、話すこと、書くことに関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・単元テスト、小テスト ・ワークシート ・学習課題の達成状況 ・ふり返りの内容 等
<p>【思考・判断・表現】 会話の場面や状況に応じて、英語で簡単な情報や考えを整理・理解したり、それらを表現して伝えあったりする力を養っている。 ・英語で表現したり、伝えあったりすることに関する事項 ・言語活動及び言語の働きに関する事項 ア「聞くこと」 (例)日常的な話題、店や公共交通機関のアナウンスの要旨理解 イ「読むこと」 (例)日常的な話題、手紙やメール、説明文等の情報の整理・理解 ウ「話すこと（やりとり）」 (例)会話の継続をする相づち、適切な応答、共感的受容 エ「話すこと（発表）」 (例)考えや情報の整理、情報の取捨選択、適切な話題選び オ「書くこと」 (例)題材の設定、情報の収集・選択、文章の構成、適切な表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・単元テスト、小テスト ・リスニング活動 ・口述・記述テスト ・ノート・ワークシート等の記述 ・学習課題の達成状況 ・ふり返りの内容 等
<p>【主体的に学習に取り組む態度】 英語(外国語)の背景にある文化に対する理解を深め、受け手のことを考えて主体的にコミュニケーションをしようとする態度を養っている。 (1)知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしているか。 (2)(1)に取り組むことで考えを深め、話したり書いたりする表現を繰り返し行うなど、授業外でも主体的に外国語習得・活用を図ろうとしているか。</p>	<p>※【知識・技能】・【思考・判断・表現】をどのように活用して言語活動に取り組んでいるか、ということの評価をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話活動への取り組み ・授業中の発言 ・出席カードの記入 ・ノート・ワークシート等の記述 ・自己評価や相互評価の状況 ・ふり返りの内容 等

音楽科

1. 音楽の授業で身につけること

表現および鑑賞として幅広い活動を行います。そこで音楽的な見方を学び、生活や社会の中にある音や音楽に少しずつ興味を持ち、豊かに関わる力を身につけていきましょう。

- ・音楽はどの曲にも、曲想や形つくりされている構造や背景などがあります。それらを理解し考えていくと、みなさん自身がより創意工夫を生かした演奏ができてきます。

- ・その曲の持つ音楽的な要素や仕組みを聴き取る学習をします。曲のよさや美しさを、より味わって鑑賞することができてきます。また感じ取ったことをお互いに伝えあう活動を通して考え方を深めたり、より豊かな感性を培うことができてきます。

- ・合奏や合唱などは、全員で音楽を作っていく音楽活動を体験します。それらの活動では、協同する喜びがあり、より音楽に親しんだり豊かな情操が培われていきます。

2. 3年間で学ぶ内容

1年生 週1時間（1・3期）＋週2時間（2期）（計45時間）

2年生 週1時間（35時間）

《各学年とも下記の内容で実施》

3年生 週1時間（35時間）

A 表現	B 鑑賞
歌唱・器楽・創作	鑑賞

3. 学習のポイント

(1)積極的に活動しましょう。

上手下手など気にしないで積極的に取り組んでみてください。表現活動は大きくブレス、身体を意識して響きを味わったりして、自分の変化や成長を感じとってみましょう。

(2)時間を大切に、準備もしっかりと

授業構成は「トレーニング・めあての確認と主活動・ふり返し」、持ち物は「教科書・ファイル・筆記用具・アルトリコーダーを音楽バックに」入れて持参です。今年度もマスクを着け、コロナ対策を行いながら授業をしていきます。

4. 評価の観点・方法

学習への取り組みや、表現の様子や鑑賞の成果などを、実技テストや学習シート、提出物などをもとに総合的に判断し、評価します。具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の基準を定め、それを基に評価をします。

観点別の内容	評価方法
【知識・技能】 曲想や音楽の構造や背景などの特徴を理解するとともに、自分なりの表現にあった技能をいかし、工夫することができる。	・題材への取り組み・学習シート・レポート・実技テスト等
【思考・判断・表現】 音楽を形づくっている要素やそれらから感じた雰囲気をもとに、どのように表現していくかを考えたり、よさや美しさを味わって聴くことができる。	・学習シート・振り返りシート・実技テスト
【主体的に学習に取り組む態度】 表現や鑑賞活動に、楽しみながら主体的に目標をもって取り組むことができる。	・題材への取り組み・学習シート・振り返りカード

美術科

1. 美術科の学習で身につけること

「表現」の各題材では、造形的な見方や考え方はたらしめ、様々な表現技法を学びながら制作を進めます。また、生活の中の造形的な事象や美術のはたらき・美術文化に興味をもち、生涯にわたって美術にかかわっていかようとする主体的な態度を培います。

「鑑賞」の授業では、美術作品のよさや美術文化について理解し、見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりについて考えます。また、表現活動で制作された他者の作品のよさを見出し、言語化する活動を通して、豊かな心情を育てていきます。

2. 3年間で学ぶ内容

1 学年 週 2 時間(1 期) + 週 1 時間(2・3 期) (計 45 時間)

2 学年 週 1 時間 (35 時間)	表現(絵画・デザイン・立体)	鑑賞(題材毎の相互鑑賞を含む)
3 学年 週 1 時間 (35 時間)	表現(絵画・デザイン・工芸)	鑑賞(題材毎の相互鑑賞を含む)
	表現(絵画・デザイン・複合)	鑑賞(題材毎の相互鑑賞を含む)

3. 学習のポイント

(1) 授業に主体的に取り組みましょう。

美術科において大切なことは「自分らしさ」を表現することです。十人十色のよさを生かし、個性的な作品を創作してください。

(2) 鑑賞の授業において、思ったこと・感じたことを「自分なりの言葉」で表現しましょう。

制作することだけが美術科の学習ではありません。名作とされる作品や、友人の作品を味わうことで、自分の表現の幅を広げ、感受性を高めましょう。

4. 評価の観点・方法

美術科では、日常の制作への取組の様子や、作品の進行状況・出来栄え・鑑賞の成果等を学習シートやスケッチブックの記載内容をもとに総合的に判断し、評価します。具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについての評価基準を定め、観点別評価とともに評定を算出します。

観 点 別 の 内 容	評価方法
【知識・技能】 色彩や材料等の効果や特徴を理解する(知識)とともに、自分なりの表現にあった技法を生かし(技能)、工夫することができる。	・ 題材への取組 ・ 学習シート・作品等
【思考・判断・表現】 各題材の表現活動(思考)を通して、自分なりに創作(判断)し、どのように制作(表現)を進めていくかを考えることができる。 鑑賞対象を客観的に味わい、自分なりの見方や感じ方を広げることができる。	・ アイデアスケッチ・学習シート・作品・振り返りシート等
【主体的に学習に取り組む態度】 各題材の表現活動や鑑賞活動に、自分なりの目標をもって積極的に取り組むことができる。	・ 題材への取組 ・ 学習シート・作品・振り返りシート等

保健体育科

1. 学ぶ目的

生涯にわたって、豊かなスポーツライフを実現することは、心と体の健康を保持増進するためにとても大切なことです。保健体育科の学習では、各種の運動の楽しさや喜びを味わいながら、仲間と協力して課題解決に向けた技能や知識の向上と、それを活用する考えを深めていきます。また、社会の変化に伴う新たな健康課題に対応していくことが求められる中で、健康の保持増進と体力の向上を目指し、安全で明るく豊かな生活の実現を目指します。

2. 3年間で学ぶ内容・・・全学年 週3時間（105時間）

(1) 体育分野

(A) 体づくり運動 (B) 器械運動 (C) 陸上競技 (D) 水泳 (E) 球技 (F) 武道
(G) ダンス (H) 体育理論 の内容について学習していきます。

(2) 保健分野

(ア) 健康な生活と疾病の予防 (イ) 心身の機能の発達と心の健康
(ウ) 障害の防止 (エ) 健康と環境 の内容について学習していきます。

3. 評価の観点・方法

保健体育科では、日常の学習への取り組みや定期テスト、技能テスト、ワークシートやレポートの提出などをもとに総合的に判断します。具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の基準を定め、それを基に評価をします。

観 点 別 の 内 容	評価方法
【知識・技能】 (1・2年) 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解しているとともに、各運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 (3年) 各運動の技の名称や、行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解しているとともに、各運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	・授業への取組 ・技能テスト ・定期テスト ・振り返りや レポートの内容
【思考・判断・表現】 (1・2年) 運動を豊かに実践するための自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 (3年) 生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	・授業への取組 ・ワークシート ・レポートの内容 ・振り返りの内容
【主体的に学習に取り組む態度】 (1・2年) 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲を持ち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組むことができる。 (3年) 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組むことができる。	・授業への取組 ・ワークシート ・レポートの内容 ・振り返りの内容

技術・家庭科（技術分野）

1. 学習の目標

技術の見方・考え方を働かせて、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を高めます。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術について理解して、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めます。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養います。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し、創造しようとする態度を養います。

2. 3年間で学ぶ内容

1年生	週 2 時間(35 時間)
2年生	週 2 時間(35 時間)
3年生	週 0.5 時間(18 時間)

材料と加工の技術	情報の技術
エネルギー変換に関する技術	生物育成に関する技術
情報の技術	

3. 学習の心得

(1) 授業に主体的に取り組もう

技術・家庭科は、生活や社会に係る題材によって成り立っています。授業では、自分に関係していることとして考え、課題を見つけ、解決してほしいと思います。今の自分の考え方に、技術・家庭科なりの考え方を取り入れて、振り返りを大切にしながら粘り強く取り組むことが大切です。

(2) 家庭学習をしっかりとやろう・・・別紙参照

4. 評価の観点・方法

技術・家庭科（技術分野）では、日常の学習への取り組みや実習の様子、定期テスト、ノート（ワークシート含む）、提出物などをもとに総合的に判断します。具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の基準を定め、それを基に評価をします。

観 点 別 の 内 容	評価方法
【知識・技能】 生活や社会で利用されている技術について理解して、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めているか。	授業への取り組み 定期テスト、単元テスト ノート・レポートの内容
【思考・判断・表現】 技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策の構想や製作図等による表現、試作等により解決する活動を通して、課題を解決する力が養われたか。	定期テスト ノート・ワークシートの 内容
【主体的に学習に取り組む態度】 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し、創造しようとする態度が養われたか。	授業への取り組み ノート・ワークシートの 内容

技術・家庭科（家庭分野）

1. 学習の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成します。

- (1) 生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けます。
- (2) 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、これからの生活を展望して課題を解決する力を養います。
- (3) よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養います。

2. 3年間で学ぶ内容

1年生	週 2 時間(35 時間)
2年生	週 2 時間(35 時間)
3年生	週 0.5 時間(17 時間)

消費生活・環境	衣生活・住生活の生活
衣食住の生活（食）	
家族・家庭生活	

3. 学習の心得

(1) 授業に主体的に取り組もう

技術・家庭科は、生活や社会に係る題材によって成り立っています。授業では、自分に関係していることとして考え、課題を見つけ、解決してほしいと思います。今の自分の考え方に、技術・家庭科なりの考え方を取り入れて、振り返りを大切にしながら粘り強く取り組むことが大切です。

(2) 家庭学習をしっかりとやろう・・・別紙参照

4. 評価の観点・方法

技術・家庭科（家庭分野）では、日常の学習への取り組みや実習の様子、定期テスト、ノート（ワークシート含む）、提出物などをもとに総合的に判断します。具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の基準を定め、それを基に評価をします。

観 点 別 の 内 容	評価方法
【知識・技能】 生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けられたか。	授業への取り組み 定期テスト 毎時間の確認テスト ノート・レポートの内容
【思考・判断・表現】 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、これからの生活を展望して課題を解決する力が養われたか。	定期テスト ノート・ワークシートの内容
【主体的に学習に取り組む態度】 よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度が養われたか。	授業への取り組み ノート・ワークシートの内容

特別支援学級

特別支援学級では生徒の実態に合わせ、下記のような学習を行います。

人間として調和のとれた育成を目指し、生徒の障がいの状態や特性及び心身の発達段階等を考慮して、将来の自立を目標とした支援をします。

1 各教科の学習（通常の学級に準じます）

個々の生徒の実態に応じて学習支援を行います。

2 自立活動（週1時間程度）

ねらい

個々の生徒が自立を目指し、学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識・技能・態度及び習慣を養い、心身の調和的発達の基盤を養います。

「健康の保持」「環境の把握」「心理的な安定」「心身の動き」「人間関係の形成」「コミュニケーション」について学習します。

3 生活単元学習（週1時間程度）

ねらい

生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習します。

「行事を中心とした単元」「季節の生活を中心とした単元」「生活課題を中心とした単元」などを学習します。

4 作業学習（週2～3時間）

ねらい

生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習します。生徒の成長にあった教育的価値の高い活動を行い、活動に取り組む喜びや成就感を味わえるよう考慮しています。

「農業」「園芸」「紙工」「木工」「調理」「縫製」「販売」「清掃」など、多岐にわたる活動を行います。